

平成26年度内閣府青年国際交流事業 既参加日本青年フォローアップ調査 報告書

目次

第 1 調査の概要.....	3
1.調査の目的.....	3
2.調査の時期.....	3
3.調査の対象者.....	3
4.調査事項.....	3
5.調査の方法.....	3
6.調査の委嘱.....	3
第 2 回答者の特性.....	4
第 3 調査結果の概要.....	5
第 1 章 内閣府事業の事後活動(IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動)に関連した 事後活動並びにあなたが自主的に行っている社会活動について.....	5
第 2 章 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響について.....	12
第 4 付録.....	18
資料 1 調査票その他の調査関係資料.....	18
a.依頼文書(電子メールによる).....	18
b.調査票ーオンラインフォーマット 鏡文.....	20
c. 調査票ーオンラインフォーマット 回答用紙.....	21
資料 3 内閣府青年国際交流事業の概要(平成 27年度派遣事業).....	30
資料 4 日本青年国際交流機構(IYEO)の概要.....	32

第 1 調査の概要

1.調査の目的

内閣府では、青少年育成の一環として、昭和 34 年以来、数々の青年国際交流事業を継続して行っている。これらの交流事業は、日本と諸外国の青年相互の理解と友好の促進、国際性を備えた青少年の育成及びその経験をいかした成果の地域・職域等への還元を図ることを目的として実施されている。

このような青年国際交流事業の趣旨を踏まえ、参加青年が事業に参加後、一定の時間が経過した時点で国際交流等に関しどのような認識を有しているか、また、実際の事後活動がどの程度の規模・頻度でどのように行われているか等、事業の諸効果を的確に把握するため、国際交流事業に参加した青年の意識や事後活動の実態、参加意欲などを調査し、もって今後の青少年に関する各種施策の推進に資することを目的とする。

2.調査の時期

平成 28 年 1 月 27 日(水)～2 月 22 日(月)

3.調査の対象者

平成 26 年度グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」 日本参加青年 106 人

4.調査事項

- (1) 青年国際交流事業への参加による意識の変化
- (2) 青年国際交流事業の成果
- (3) 成果の社会への還元方法
- (4) 青年国際交流事業の在り方(プログラムの内容、構成等)
- (5) 事業終了後の既参加青年のネットワークへの参加の程度

5.調査の方法

- | | |
|------------|---------------------|
| (1) 質問票の発信 | 平成 28 年 1 月 27 日(水) |
| (2) 回収締め切り | 平成 28 年 2 月 22 日(月) |
| (3) 有効回収数 | <u>70 通、66%</u> |

6.調査の委嘱

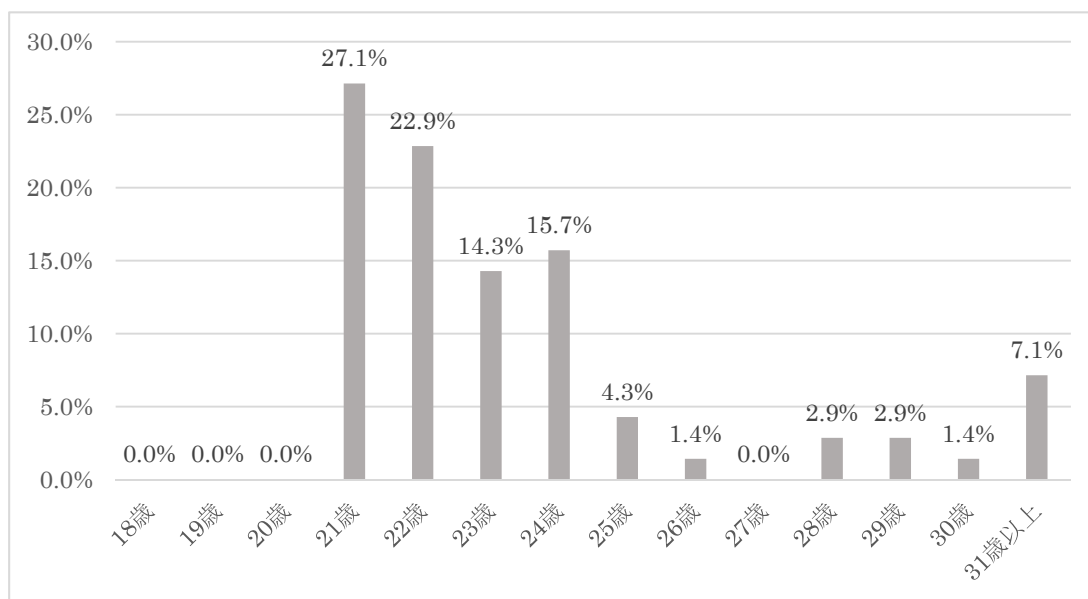
調査事項の設定は、内閣府青年国際交流担当室が行い、質問票の企画、調査の実施、集計結果分析及び結果報告書の作成を一般財団法人 青少年国際交流推進センターに委嘱した。

※本書を読む際の注意

- 1 比較の数値は、小数点以下第 1 位までとしている
- 2 0 人、0%は該当者がいないことを示す。
- 3 図表においては、回答分の一部(原則として後半半分部分)を省略している場合がある。正確な回答分は回答部分によって確かめられたい。
- 4 クロス集計表の表側も表記を簡略化してある。

第2 回答者の特性

問1 あなたの現在の年齢をお答えください。

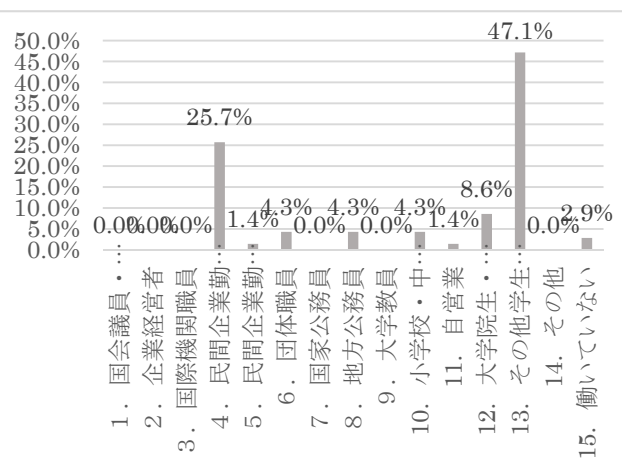


問2 あなたの性別をお答えください



問3 あなたの現在の就業状況をお答えください。(○は1つ)

項目	全体
1. 国会議員・地方議員・地方自治体の首長	0(名) 0.0%
2. 企業経営者	0(名) 0.0%
3. 国際機関職員	0(名) 0.0%
4. 民間企業勤務(正社員)	18(名) 25.7%
5. 民間企業勤務(正社員以外)	1(名) 1.4%
6. 団体職員	3(名) 4.3%
7. 国家公務員	0(名) 0.0%
8. 地方公務員	3(名) 4.3%
9. 大学教員	0(名) 0.0%
10. 小学校・中学校・高校等の教員	3(名) 4.3%
11. 自営業	1(名) 1.4%
12. 大学院生・研究生	6(名) 8.6%
13. その他学生(11.以外)	33(名) 47.1%
14. その他	0(名) 0.0%
15. 働いていない	2(名) 2.9%



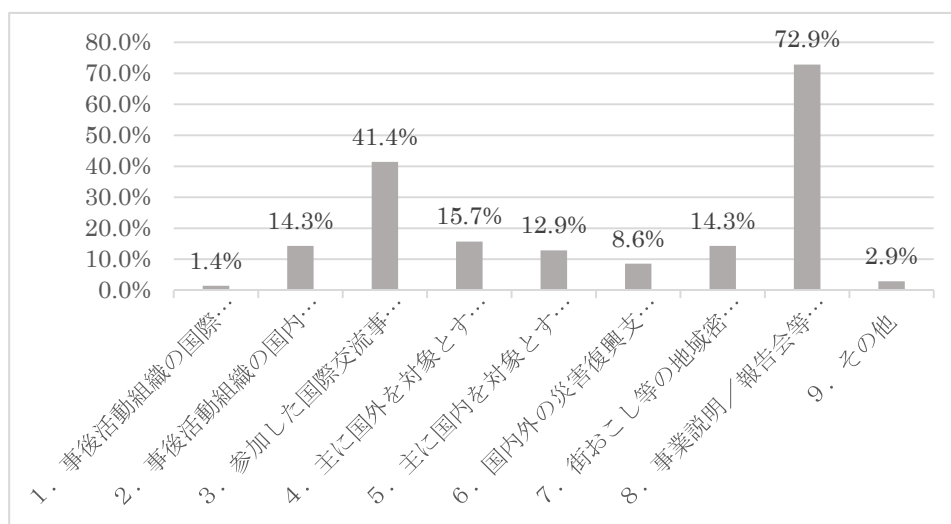
第3 調査結果の概要

第1章 内閣府事業の事後活動(IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動)に関連した事後活動並びにあなたが自主的に行っている社会活動について

問4-1 下記の活動のうち、あなたが企画または参加したことのあるものをお選びください。(複数選択可)

「事業説明会/報告会等の事業参加経験を他社に伝える活動」に関わっている割合が 72.9%となっており、1 年以内としては事業の体験をしたり、直接事業の受入れなどに関わったりする等の活動が取り組みやすいことが伺える。

項目	人数	%
1. 事後活動組織の国際大会	1(名)	1.4%
2. 事後活動組織の国内大会(全国大会、ブロック大会等)	10(名)	14.3%
3. 参加した国際交流事業等の実施への協力(例:広報の実施、ホームステイの受入等)	29(名)	41.4%
4. 主に国外を対象とする国際交流活動(例:スタディツアー等)	11(名)	15.7%
5. 主に国内を対象とする国際交流活動(例:国際教育支援等)	9(名)	12.9%
6. 国内外の災害復興支援(東日本大震災復興支援活動等)	6(名)	8.6%
7. 街おこし等の地域密着型の社会活動	10(名)	14.3%
8. 事業説明/報告会等の事業参加経験を他者に伝える活動	51(名)	72.9%
9. その他	2(名)	2.9%



問4-1 「9.その他」の回答

IYEO 運営委員

国際交流基金モスクワ日本文化センターのボランティア

問4-2 問4-1で回答された活動について、A 企画した内容または B 参加した内容とあなたの役割について具体的に記入ください。

A.企画した内容(事業名、目的、ねらい、実施場所、規模(参加人数及び予算)、成果等を具体的に記入)

異文化理解

- ・事業名:外国人向け日本語教室の開催
 - ・目的:日本への興味を持ってもらう、日本語に慣れ親しんでもらう
 - ・ねらい:同上
 - ・実施場所:ダブリンシティ大学(留学先大学)
 - ・規模(参加人数及び予算):25人程度
 - ・成果等(具体的に記入):初心者向け、学習者向けとして8回ほど企画しましたが徐々に参加者が増えました。教室以外の場で日本語で声をかけてもらえたり、日本についての質問をされたりということもありました。
-
- ・事業名:日・エカテリンブルグ青年交流プログラム
 - ・目的:日露間の相互理解と良好関係への貢献、将来日露間で活躍する青年の育成
 - ・ねらい:日露青年の交流と育成
 - ・実施場所:エカテリンブルグ、ロシア
 - ・規模(参加人数及び予算):日本人大学生10名(予定)、現地の学生および関係者多数
 - ・成果等(具体的に記入):2016年秋実施予定

地域活動

- ・事業名:絆ジャパン
 - ・目的:福島復興支援
 - ・ねらい:養護施設の子どもを励ますこと
 - ・実施場所:エンジェルハウス
 - ・規模(参加人数及び予算):30人(予算は不明)
 - ・成果等(具体的に記入):役割は子どもと遊ぶことと、悩み相談である。初めは、自分の将来の夢を語れなかった子どもたちが時間がたつごとに語れるようになった。特に海外に興味を持てる子どもが増えた。
-
- ・事業名:胆振国際協力セミナー
 - ・目的:地方在住の中学生以上を対象に国際協力について理解を深める
 - ・ねらい:参加者にとって海外を身近なものに感じるものとする
 - ・実施場所:中島会館
 - ・規模(参加人数及び予算):50人
 - ・成果等(具体的に記入):3/5実施予定
-
- ・事業名:第42回「東南アジア青年の船」事業地方プログラム受入
 - ・目的:東南アジア青年と県民・青年の交流
 - ・実施場所:熊本県庁、熊本南区役所等
愛知県豊橋市、新城市、岡崎市、名古屋市
 - ・規模(参加人数及び予算):30名程度
 - ・成果等(具体的に記入)
 - ー熊本県:事業を支える人の多さを感じることができた。自分が参加した事業においてもこうやって既参加者を中心として多くの人が準備をしてくれていたということへの気づきが一番大きかった。
 - ー愛知県:愛知県の中では名古屋市がとくに発展している。しかしもっと大きな視点から見ると、ローカル企業としてその発展を支えている一面もある。今回はそのような対称的なプログラムを盛り込むことで、青年達が自国に戻ってから愛知県での学びを活かしてほしいと思い企画した。またローカルユースとの交流では、お互いの文化を紹介し合ったり、一緒に愛知県の名物である味噌の博物館を見学することで、より一層交流を深めることができた。実行委員長という大きな役割を頂き、青年達の学びの姿勢、ローカルユースとの交流を楽しむ姿を見ることで、国際交流の楽しさをもっと伝えていきたいと改めて実感した。

その他(報告会)

- ・事業名:SWY27 の報告会兼、SWY28 の宣伝
- ・目的:SWY の魅力の発信
- ・ねらい:大学内での SWY の宣伝、応募者を増やすこと
- ・実施場所:大学
- ・規模(参加人数及び予算):70 人くらい
- ・成果等(具体的に記入):内閣府の方にも来てもらい、昼休みに約 20 分ずつ話した。私は個人的に swy の魅力を話すことができたので、より具体的にどんなことをして、何が得られるのかを伝えられた。
- ・グローバルフェスタで IYEO の PR 活動
- ・帰国報告及び説明会でのプレゼン
山梨 IYEO 帰国報告会(15 名程度参加)
静岡大学・山梨県 IYEO(20 名程度参加)
明治学院大学(20 名程度参加)
立教大学(20 名程度参加)

B.参加した内容(事業名、目的、ねらい、実施場所、規模(参加人数及び予算)、成果等を具体的に記入)

異文化理解

- ・事業名:タイスタディツアー
- ・目的:国際協調の精神を養う、現地の青少年育成についての理解
- ・実施場所:タイ王国
- ・規模(参加人数及び予算):14 名 60000 円
- ・成果等(具体的に記入):タイの生活レベルを知れた。タイの子供も日本の子供も接し方が変わらないということが分かった。海外でのボランティア活動をしている方の姿勢が見られた。
- ・事業名:国連グローバルコンパクト日中韓ラウンドテーブル
- ・目的:日中韓の企業に向けて三か国のユースから提言を行う
- ・ねらい:ユースの意見を企業に伝える、ユースと企業でサステナブルな社会を作る
- ・実施場所:ソウル
- ・規模(参加人数及び予算):80名程度

防災

- ・事業名:IYEO30周年記念企画 VISIT 東北
- ・目的:東日本大震災から4年目を迎える岩手県において、IYEO のネットワークを活かし、現地でできることを探る。
- ・ねらい:仮設住宅等における支援活動を行なう。ボランティア活動を通して、地元の方々と交流する
- ・実施場所:岩手県陸前高田市
- ・規模(参加人数及び予算):30名程度
- ・成果等(具体的に記入):多くの事業の既参加青年が集まり、国際交流、世代間交流を通して東北の地元の方々と親交を深めることができた。東北を再訪するきっかけにもなる。

ボランティア

- ・事業名:乳児院お誕生会飾付
- ・目的:子供たちのお誕生日をお祝いするためにバースデーボードを作成する
- ・ねらい:親と暮らせない子供のお誕生日を祝い、子供たちが振り返った時に支えになってほしいという願いを込めて写真に残すこと。
- ・実施場所:東京都済生会乳児院
- ・規模(参加人数及び予算):3 人(約 500 円/月)
- ・成果等(具体的に記入):毎回、乳児たちやスタッフの方に大変喜ばれております。
- ・事業名:Second Harvest Japan
- ・目的:ご飯をつくる
- ・ねらい:食べものの無駄削減

- ・実施場所:秋葉原
- ・規模(参加人数及び予算):数えていない(1回30人程度かもしれない)
- ・成果等(具体的に記入):何食ったか覚えていません。

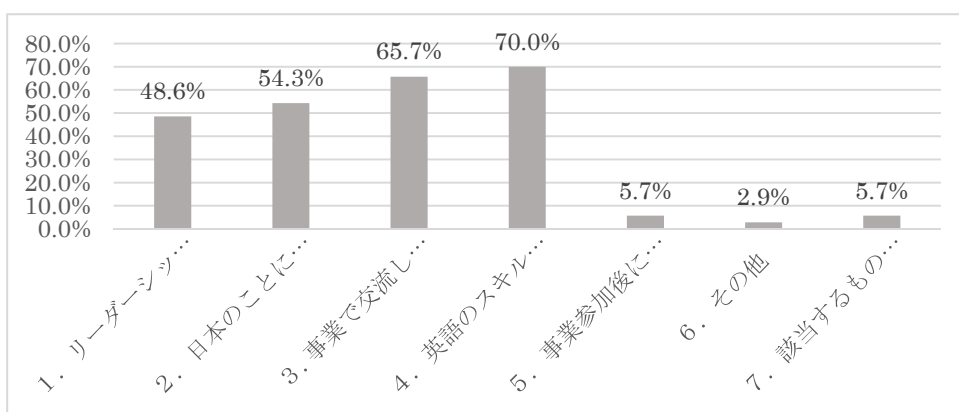
その他

- ・「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」報告会
- ・事業内容を知ってもらう
- ・宮城 IYEO 報告会(参加者約20名)
- ・大阪 IYEO 帰国報告会兼事業報告会(参加者約20名)
- ・兵庫 IYEO 事業説明会、帰国報告会(参加者約20名)
- ・日韓交流連絡会議
- ・SWY28 事前研修
- ・SWY28 陸上研修
- ・日本・ASEAN ユースリーダーズサミット 当日ボランティア
- ・九州ブロック大会、近畿ブロック大会
- ・国際青年育成交流事業の受入

問5-1 あなたは内閣府事業への参加をきっかけに、各種スキルの開発に取り組むようになりましたか。該当するものをお選びください。(複数選択可)

「4.英語力のスキルアップに取り組んだ」は 70.0%の割合で取り組んでおり、次に、「3.事業で交流した国の社会や文化(言語を含む)について学びを深めた」が 65.7%、「2.日本のことについてより理解を深めるための学び始めた」が 54.3%、「1.リーダーシップやマネジメント力を向上させるために自己啓発活動に取り組んだ」が 48.6%であった。

項目	人数	%
1. リーダーシップやマネジメント力を向上させるために自己啓発活動に取り組んだ	34(名)	48.6%
2. 日本のことについてより理解を深めるために学び始めた	38(名)	54.3%
3. 事業で交流した国の社会や文化(言語を含む)をより深く学び始めた	46(名)	65.7%
4. 英語のスキルアップに取り組んだ	49(名)	70.0%
5. 事業参加後に日本国外でも通用する資格をとった	4(名)	5.7%
6. その他	2(名)	2.9%
7. 該当するものはない	4(名)	5.7%



問5-2 【問5-1で1~6を選んだ方のみ回答】どのようにスキル開発に取り組みましたか。どのようなスキルの向上にどのような方法で取り組んだか、具体的にご記入ください。

圧倒的にリーダーシップ、マネジメント力の向上に関することに加え、イスラム文化への学びを深める努力をしている言及が目立つ

【語学】 ・英語で開講されている大学の授業を継続的に受講。 ・新聞を良く読み日本のことについてより理解を深めた。スピーキングの教材を使い、英語のスキルアップを図った。 ・アラビア語の勉強、日本語教育能力検定試験を受験して合格、外国人参加青年と頻繁に英語でオンライン会話する等 ・TOEIC 受験 ・英語のスキルアップとして、イギリスに留学している
【リーダーシップ、マネジメント、企業家精神】 ・entrepreneurship in education という授業を受講中。事業期間中に social entrepreneurship のコースに所属していたが、そこで学んだ事と自分の専攻に関わる教育という分野の中でどの様に生かしていけるかを学んでいる。 ・学校の中でもさまざまなリーダーの形を考えるようになった。 ・リーダーシップについても更なる向上を求め、ワークショップに参加しました。 ・福沢諭吉記念文明塾に所属し、リーダーシップや多方面にわたる知識や、さまざまな国籍、年代の人とのグループワークに取り組んだ ・リーダーシップとファシリテーション力の向上に取り組んだ。事業で学んだ全方位型リーダーシップを実際の仕事の場面で適用した。また、ファシリテーターから紹介されていたソリューションフォーカスに関する書籍を読み、スキルの向上に励んだ。 ・フィリピン支援団体のチームビルディングをご指導いただきながら、リーダーシップ・マネジメント力の向上に努めた。
【時事教養】 ・日本や事業で交流した国についてより理解を深めるために、本や新聞などを読んで学んでいる。とくに宗教に関する点や、その宗教が関連する社会情勢などにも、より関心を持つようになった。 ・その他(プロトコルマナー): マナー教室に通い、初級クラス修了。現在中級クラスの受講中
【文化】 ・SWY をきっかけに、バーレーンやオマーンを訪れることにした。それに伴い、本で文化や歴史を学んだり、アラビア語を少し勉強したりした。 ・日本の文化、伝統を海外の方に伝えられるように、学び始めた。日常的に着物を着るようにした。 ・その国や文化のイメージよりも、実際に自分の目で見て物事を判断できるようになった。 ・イスラムについての書籍を読むようになった。 ・日本の宗教や歴史、文化について、十分英語で説明できるように英語のスキルアップを試みました。そのため、それらの英語で書かれた本を購入し、勉強しました。また、事業であ初めて交流したイスラム圏の青年達に影響を受け、イスラム教について理解を深めるため、書物を読むなどをしました

問6 これからどのような事後活動(社会活動)に取り組みたいです。これから取り組みたい活動または、既に取り組んでいる事後活動について、グローバルリーダー育成事業で得たこと、広げたネットワーク、そして自身で向上させた(伸ばした)スキルを使ってどのように活動していくか、1年以内、5年以内の計画を具体的にご記入ください。

1年以内の計画には事業の報告を行うという意見が多いが、5年以内の計画には、起業についての言及が目立つ

問6-1 1年以内の計画

異文化理解

今後出会う世界の人、一人ひとりへの十分な理解をしたいため、国際情勢や異文化理解のスキルを更に向上する。
国際交流活動をもっと発展させたい。 IYEO の組織を活用して、地元の愛知県と世界を繋げるプログラムやイベントを企画したい。
日本でも外国人向けの日本語教育支援や日本文化の体験活動等に從事してみたい。

教育

小学校教員になるので、国際理解教育の題材などに国際交流の経験を生かして、これからの時代を生きる子ども達に国際社会で生きるスキルを身につけられるような授業と、指導をしていきたいです。
--

情報・メディア

校内から SWYer を増やそうと、学部長と連携している。積極的に学内講演を行い、情報メディアコースで培ったメディアに関する考え方をもとにし、ソーシャルメディアを利用し、SWYer を増やす取り組みを行っている。

社会企業家精神

日本文化を世界に発信出来るように知識をつけ、資格取得を目指す。又、社会人一年目なので、グローバルで活躍出来るようなビジネススキルを得る。外国人参加青年が日本に訪れた時にしっかりとした対応が出来るようにする。

ボランティア

イギリス留学後は数ヶ月間フィリピンまたは東南アジアでのインターンシップを行いたいと考えている。帰国後は SWY をはじめあらゆる事業のボランティアや実行委員を務め、国際交流を継続するだけでなく自身の経験を様々な人と共有をしたい。

海外の exPY のところに行き(スリランカ周辺)、会うだけではなく、現地でボランティアをする。また、日本の文化を紹介する活動も行う。

地元の IYEO メンバーと共に寄港地活動の受入れ、事業説明会の企画

その他

自分が所属する組織において、適宜最善を考慮し、同僚と協働して業務の遂行を図ることに貢献したい。事業のネットワークを継続し、できる範囲で互いに訪問し合う。

IYEO の一員として事業活動を多くの方へ広め、未来の参加青年を増やす広報活動に努める。

4 月から国際交流およびダイバーシティ教育の教員となることとなったため、大学生の国際交流推進に一層力を入れる。

問6-2 5年以内の計画

異文化理解

仕事以外でも、できる限り海外の人との関わりをもち、自身の視野や新たな価値観を学び続けていく。その為に、IYEO やその他国際交流活動に積極的に参加していく。参加事業を通して日本について知らない事の多さや、説明する難しさを痛感し、また留学中に日本語を教える機会を得て、5 年以内には海外で日本語や日本文化を教える活動に長期的に従事したい。

各種プログラムで各国参加者・日本人参加者の受け入れ(異文化理解の向上)。

国内外での国際交流活動への参加

教育

教育の分野で専門的な知識・技能を発揮してリーダーシップをとることができるようになるために、海外の大学院に留学し、教科指導力と学校マネジメント能力を伸ばしていきたいと考えます。教育の分野にて、SWY で学んだことをいかしたい。

国際理解教育を続けて、子どもたちの変化をみてまた授業づくりを改善していきます。

社会企業家精神

日本に限らず、世界の食事情の改善を図りたいため、オーガニックフードの事業を立ち上げたい。

地元でグリーン・ツーリズムの活動を行い、外国人と一緒に地域づくり活動を行う。

旅人、地域の人が交流できるような、ゲストハウスを作るために、スキルを身につけたい

海外で起業する。

オリンピックに向けて増える外国人観光客と関わり、言語面でのサポートをする。特に既参加海外青年向けにツアー等を企画したい。

5年以内には、日本の青年に関わる職場か事業に再度挑戦できるようになるまで成果を出し、効果的なフィードバックを与え、青年の成長を助けられるようになることを目標にします。
その前段階として、5年以内に具体的なコンセプト、展開規模、人員確保方法、ファンディング手法を詰めたいです。

情報・メディア

社会人として働きながら、コースディスカッションで学んだことをいかして情報を発信していく立場になる。具体的にはアジアの情報を収集してオンラインで発信する。

ボランティア

ホームステイの受け入れなど訪日外国人との交流を通じて、日本の魅力を発信し、同時に日本の国際交流を活性化させたい。

途上国へ行き、現地の状況を理解したり現地の人々の意見を理解する。自分に最も出来ることをボランティアとして行動する。

その他

日本国内にいる既参加青年(海外青年含む)と地域の人、大学生との交流の場を設け、PYセミナーのような全員参加型のワークショップを開催すること。

事業における縦のつながりや IYEO 組織のネットワークを活かして事業活動の意義を広める社会運動を企画・運営したい。

仕事を通して、英語力や技術力、グローバルマインドを身につけ、将来は通訳案内士などとして、訪日外国人をおもてなしする活動に関わりたと思っています。日本はおもてなしがすごいと言われていますが、SWYに参加して、OPYのおもてなしに感銘を受けました。それから、国籍は関係なく誰かのために自分が出来ることをしたいと考えるようになりました。

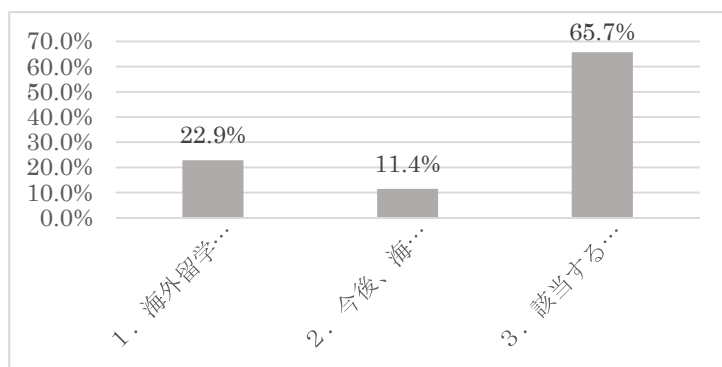
TOEIC とメンタル面を磨き、教育の分野で青年海外協力隊に参加したい。

地域の魅力を引き出し、国内外の人々に訪れたい・触れたいと思わせることのできるような環境や仕掛けづくりができる人になる。

問7 事業参加後、海外留学を経験しましたか。あるいは海外留学について具体的に計画していますか。

事業参加後に、「海外留学を経験した又は現在海外留学中である」が 22.9%、「今後、海外留学をすることを具体的に計画している」ものが 11.4%あり、あわせて 34.3%いる。

項目	人数	%
1. 海外留学を経験した又は現在、海外留学中である	16(名)	22.9%
2. 今後、海外留学をすることを具体的に計画している	8(名)	11.4%
3. 該当するものはない	46(名)	65.7%



問7-2 事業終了直後に、事後活動への参加や海外留学のほかに、事業の成果をいかすために設定した目標や計画について、達成したものや、達成に向けて行動しているものについて記載してください。

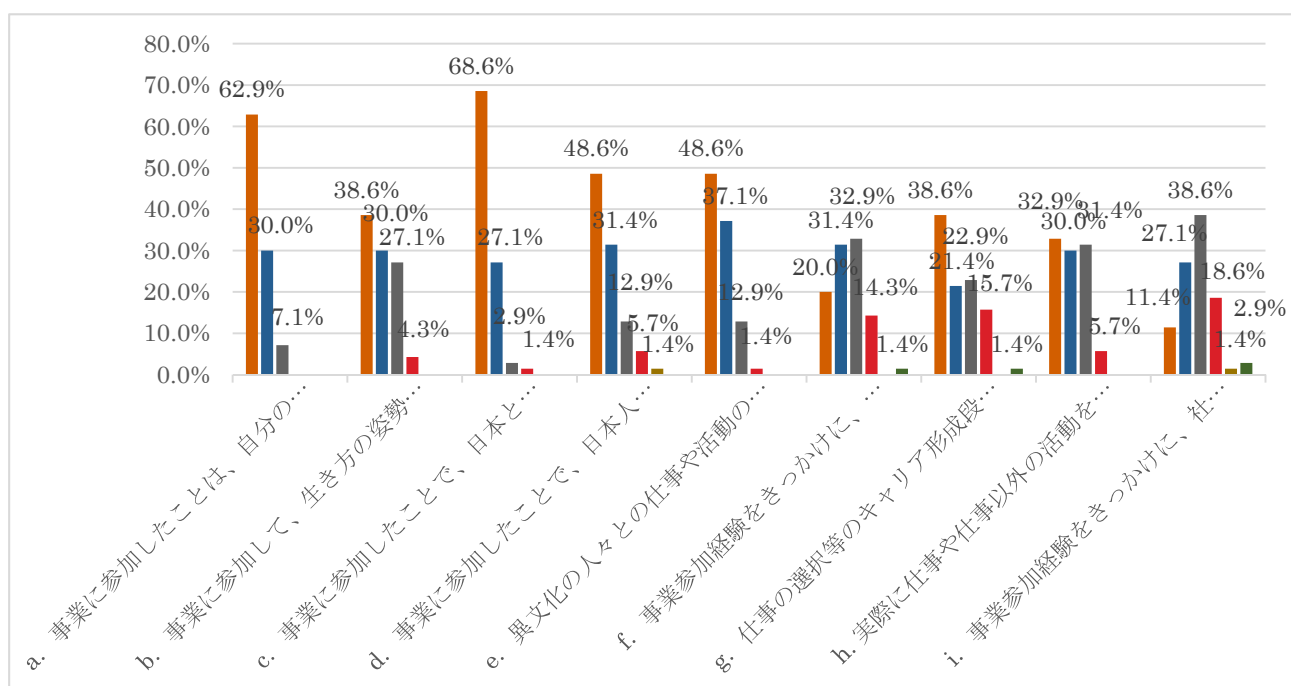
資格取得やセミナー参加等、新たに知識を得ることに関する言及が目立つ。
グローバル化するためには、自分の足元をよく知らないといけないと思った。自らも地元の歴史や良さを知るよう努力するようになった。地元の良さを知ってもらうために、県外や海外青年を招いて地元の観光案内やツアーを企画した。
事後活動に関わる。
資格の取得及び取得のため学校へ通い始めた。 ・日本語教育能力検定試験 ・漢字検定 ・通訳案内士 ・TOEIC スコア向上
自ら進んで外国人観光客に声を掛けるようになった。
イスラム教についての知識が増えた。これからも宗教について学んでいきたい。
東南アジアの一人旅。

第2章 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響について

問8 内閣府事業に参加したことで、あなたのその後の人生やキャリアにどのような影響がありましたか。下記 a から i に挙げる項目について、「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち該当するものをそれぞれ1つお選びください。

「a.事業に参加したことは自分の人生や人としての生き方に良い影響を与えた」については、「ややそう思う」以上が100%であり、そのうち「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると92.9%と高い数値となっており、参加青年に与えた影響力の高を示している。 「c.事業に参加したことで、日本と海外との関係に関心を持つようになった」については、「ややそう思う」以上が98.6%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると95.7%と高い数値となっており、参加青年に与えた影響力の高を示している。 「e.異文化の人々との仕事や活動の共同に置いて、事業参加経験が役立っている」については、「ややそう思う」以上が98.6%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると85.7%となっている。 また、「d.事業に参加したことで、日本人としてのアイデンティティを意識するようになった」については、「ややそう思う」以上が92.9%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると80%となっている。 「h.実際に仕事や仕事以外の活動をするうえで、事業参加経験が役立っている」では、「ややそう思う」以上の割合が94.3%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると62.9%となっている。 いずれも参加青年に与えた影響が、非常に高いことを示している。
--

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
a. 事業に参加したことは、自分の人生や人としての生き方に良い影響を与えている	44(名) 62.9%	21(名) 30.0%	5(名) 7.1%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
b. 事業に参加して、生き方の姿勢やものの見方が変わった	27(名) 38.6%	21(名) 30.0%	19(名) 27.1%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
c. 事業に参加したことで、日本と海外との関係に関心を持つようになった	48(名) 68.6%	19(名) 27.1%	2(名) 2.9%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
d. 事業に参加したことで、日本人としてのアイデンティティを意識するようになった	34(名) 48.6%	22(名) 31.4%	9(名) 12.9%	4(名) 5.7%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%
e. 異文化の人々との仕事や活動の協働において、事業参加経験が役立っている	34(名) 48.6%	26(名) 37.1%	9(名) 12.9%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
f. 事業参加経験をきっかけに、リーダーシップやマネジメント力が向上した	14(名) 20.0%	22(名) 31.4%	23(名) 32.9%	10(名) 14.3%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
g. 仕事の選択等のキャリア形成段階において、事業参加経験が役立っている	27(名) 38.6%	15(名) 21.4%	16(名) 22.9%	11(名) 15.7%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
h. 実際に仕事や仕事以外の活動をする上で、事業参加経験が役立っている	23(名) 32.9%	21(名) 30.0%	22(名) 31.4%	4(名) 5.7%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
i. 事業参加経験をきっかけに、社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった	8(名) 11.4%	19(名) 27.1%	27(名) 38.6%	13(名) 18.6%	1(名) 1.4%	2(名) 2.9%



問9 事業終了後、異文化の人々との仕事や活動の協働や、リーダーシップやマネジメント力の発揮が必要な場面において、どのように事業参加経験がいかされましたか。

異文化理解の観点では相手の立場を知ろうとすることが、リーダーシップの観点では、サポーターとしての立ち位置についての言及が目立つ。

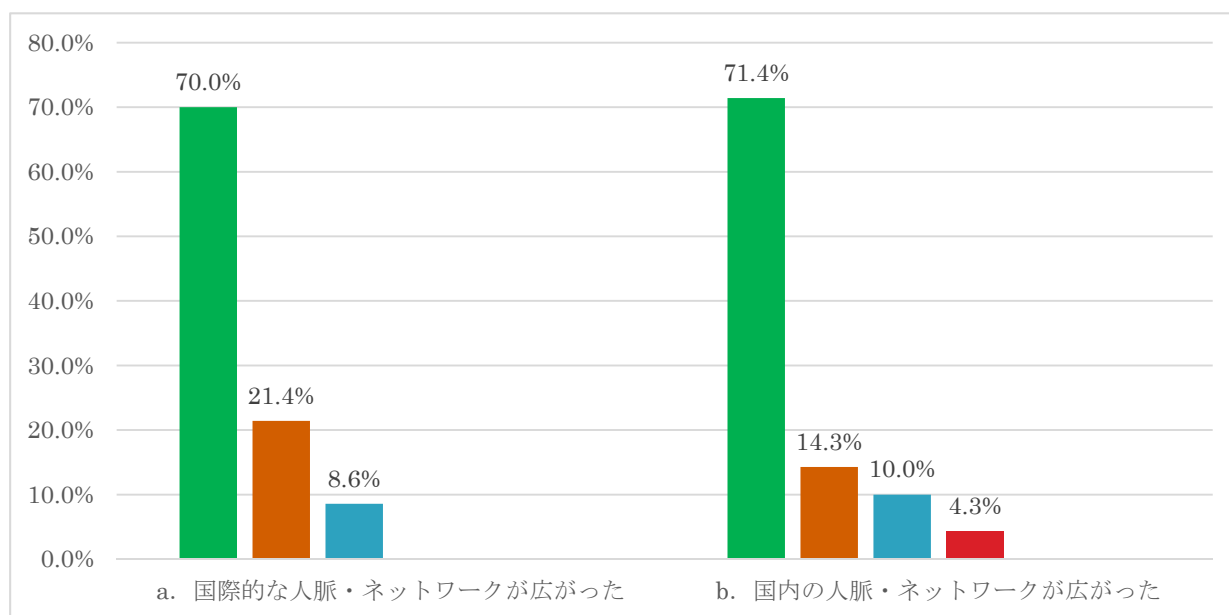
自分と意見が食い違うときに、自分の意見もしっかり伝え、相手の意見もしっかり聞き、意見をすり合わせられるようになった。
異文化の人々との活動においては、まずは自分の事業での経験を話せて色々な角度からの話題を作れた。事業中に異文化への理解が深まったので、より相手のことを理解したうえで交流できた。
リーダーシップの発揮が必要な場面では、以前よりも状況の把握ができるようになったので、必要に応じバランス感覚を持って意見交換することができた。
異文化を理解したいという思いが強くなり、より良い関係を築けるようになった。
偏見を持たずに、その人をひとりの人として接することができるようになった。
異文化の人であっても、感謝を伝えることは共通に大切なことで、感謝はしっかり相手に伝わるものだと分かった。 そのため、事業後仕事や生活で異文化の人と交流をする際にも、感謝をしっかり伝えられるようになった。 また、中途半端な理解で分かったふりをせず、分からないことはわからないと言えるようになった。 行動だけで人を判断せず、理由を考えるようになった。
他者を理解することで、自分自身を知ることが出来た。これはとても大きい。

伝え方、話の内容を人に応じて変えるようにするなど話し方を変え、仕事上での交渉等に役に立っている。
インターンで年齢層が違う人と働く経験をしたが、SWYの中で年齢層が違う人の中でリーダーシップを発揮していった経験が生かされた。
チームのリーダーとしてグループを牽引する立場において、榎本講師のリーダーシップセミナーの考え方がとても参考になっている。
リーダーシップセミナーで学んだ、「自分が前に出るべき時は出る、そうでないときは一歩引いてサポートに回る」ということを心がけることで、精神的に楽になった。
プレゼン発表の大会に参加する際、務めたリーダーの役割を考える上で、リーダーシップセミナーで私に合っていると分かった後方支援型のリーダーシップを利用し、結果を残せた。

問10内閣府事業に参加したことで、あなたの国際的又は国内の人脈やネットワークは広がったと思いますか。「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち該当するものをそれぞれ1つお選びください。

「a.国際的な人脈・ネットワークが広がった」の項目で「ややそう思う」以上の割合は 100%であり、その中で「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると 91.4%と大変に高い数値を示している。
また、「b.国内の人脈・ネットワークが広がった」の項目では、「ややそう思う」以上の割合は 95.7%であり、その中で「非常にそう思う」が 71.4%と高い数値であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると 85.7%である。
国内外ともにネットワークの広がり高い効果があったことを示している。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
a. 国際的な人脈・ネットワークが広がった	49(名) 70.0%	15(名) 21.4%	6(名) 8.6%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
b. 国内の人脈・ネットワークが広がった	50(名) 71.4%	10(名) 14.3%	7(名) 10.0%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%



問11【問10で①～③を選んだ方のみ回答】どのような場面で、ネットワークが広がった、役に立ったと感じましたか。具体的にご記入ください。

44 名が回答をし、世界中に信頼できる仲間ができたことや、ネットワークが広がったことで、さまざまな場所で、多様な人々とコミュニケーションを取ることができ、進路を含む将来を考えるきっかけになったというコメントが目立つ。

全国、全世界に友達ができた。全国や世界のニュースが自分ごとになった。

より広い視野での意見を知ることができた。他の PY の出身地や留学先を訪ねたことでより深いその土地の魅力を感じることができた。
国際理解の視点を取り入れた授業を行う際、OPY に協力してもらってリアルな言葉や写真を用いて子どもに伝えることができた。
旅行をする際や、学部でのリサーチ、海外で何かボランティアをしたいと考えたときに、現地人からみた現地の状況を教えてもらえたり、英語以外が公用語の国での活動をサポートしてもらったりした
世界中にいる個性あふれる参加青年の生き様から自分が常にInspireされているため、ネットワークが広がったことを日々感じる。
今まで訪れたことのなかった国や地域に友人ができ、メディアを通してでは分からない彼らから得た生の情報からその国や地域を見ることができたと感じたとき。国内に関しては社会人や他大学の学生と知り合え、それぞれ自分の長所を生かして取り組む姿を見て刺激を受けたとき。
個人でイベントを企画した際に SWY のネットワークを活かして集客に役立てられた。
同業他社の話を知る機会が増え、アドバイスなどをもらう機会が増えたのは大変役に立ったと感じている。
他業種の人とのコミュニケーションが増えたと感じている。
Facebook のようなソーシャルネットワークを通して、国内外の参加青年と関わりを持ち続けられている点大きい。彼らの投稿を通して、自分とは全く違った視点を多く得る事ができている。また、他の既参加青年が精力的に活動する姿は、自分を鼓舞する力になっている。さらには、現在留学中の既参加青年も多い為、彼らとの交流のなかで将来に対する考え方や情報交換を行っている。

第3章 あなたの将来に関して

問12 あなたは、同じ事業に参加した外国参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

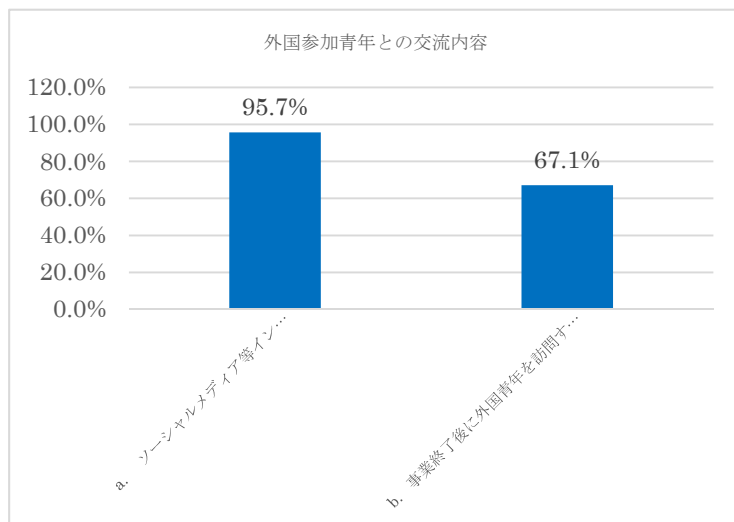
回答者全員(100%)が事業参加後も外国青年と現時点でも交流が続いていると答えており、事業のねらいが達成されていると評価できる。

項目	人数	%
1. 交流が続いている	70(名)	100.0%
2. 交流は続いていない	0(名)	0.0%

問 12-1 交流が続いている(続いていると答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください(複数選択可))

a のソーシャルメディアを利用した交流が 95.7%と極めて高いことが特徴であるが、同時に b の直接のコミュニケーションによる数値が 67.1%であり、事業の成果を示している。

項目	人数	%
a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている	67(名)	95.7%
b. 事業終了後に外国青年を訪問する、外国青年の訪問をうけるといった交流が続いている	47(名)	67.1%



問 13 あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

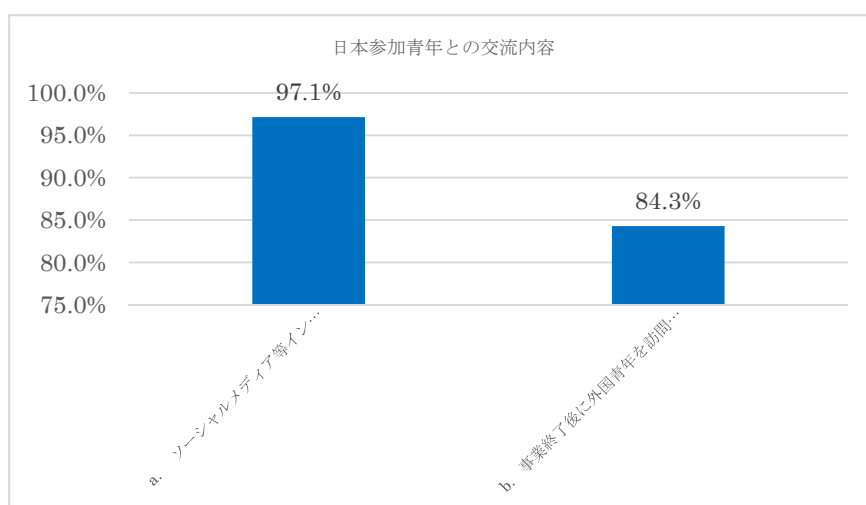
回答者全員(100%)が事業参加後にも日本青年と現時点でも交流が続いている、事業のねらいが達成されていると評価できる。

項目	人数	%
1. 交流が続いている	70(名)	100.0%
2. 交流は続いていない	0(名)	0.0%

問 13-1 交流が続いている(続いていると答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください(複数選択可))

a のソーシャルメディアを利用した交流が 97.1%と極めて高いことが特徴であるが、同時に b の直接のコミュニケーションによる数値が 84.3%であり、事業の成果を示している。

項目	人数	%
a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている	68(名)	97.1%
b. 事業終了後に日本青年を訪問する、日本青年の訪問を受けるといった交流が続いている	59(名)	84.3%



問 14 現時点での自分の気持ちに最も近い選択肢をそれぞれ1つお選びください。

「(3) 国際的な仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)に関わりたい」の項目では「ややそう思う」以上の割合は 98.6%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると 90%と高い比率であり、意欲の高さがうかがえる。

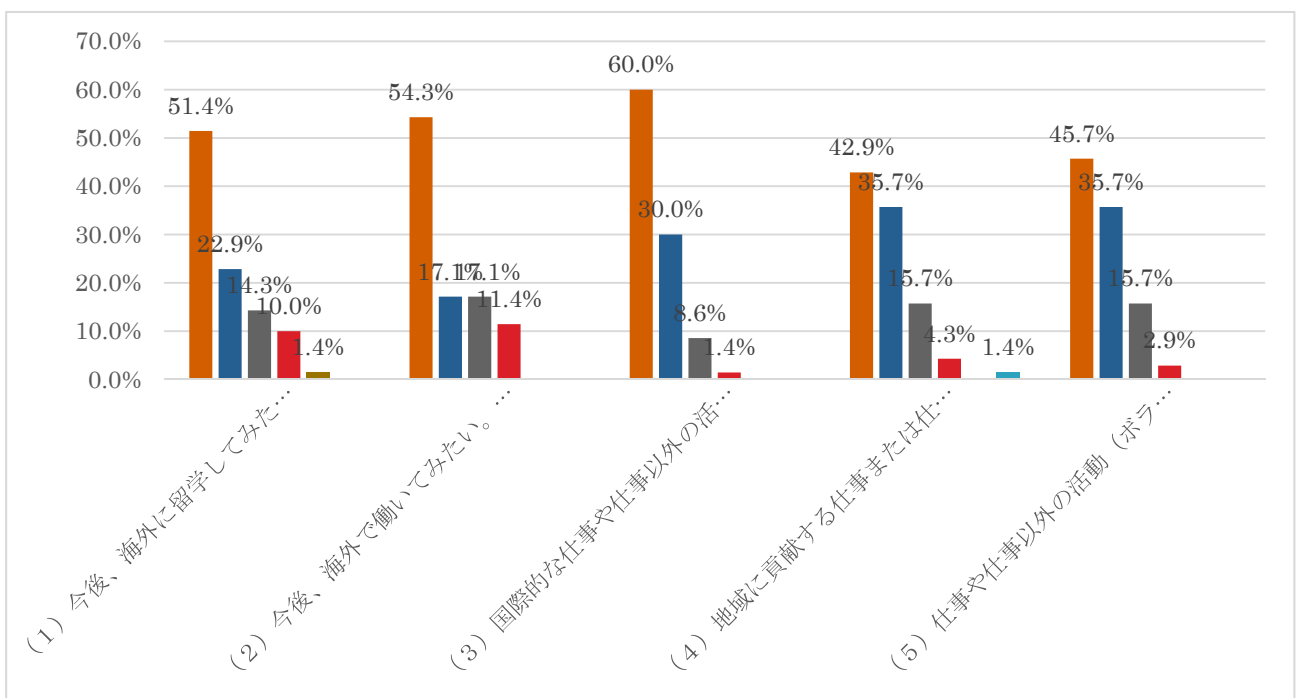
「(5) 仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい」の項目でも「ややそう思う」以上の割合は 97.1%であり、本事業の狙いである「リーダーシップの向上」について意識の向上に効果があったことが伺える。

「(4) 地域に貢献する仕事または仕事以外の活動(ボランティア等)に関わりたい」の項目でも「ややそう思う」以上は、95.7%の数値を示しており、「地域への貢献」についての意欲が増したことが伺える。

「(1) 今後、海外に留学してみたい」の項目で「ややそう思う」以上の割合は 88.6%である。

また、「(2) 今後、海外で働いてみたい」の項目で「ややそう思う」以上の割合は 88.6%である。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
(1) 今後、海外に留学してみたい。(既に留学経験のある方は、留学を再度経験したいかどうかという観点から選んでください)	36(名) 51.4%	16(名) 22.9%	10(名) 14.3%	7(名) 10.0%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%
(2) 今後、海外で働いてみたい。(既に海外勤務経験のある方は、海外勤務を再度経験したいかどうかという観点から答えてください)	38(名) 54.3%	12(名) 17.1%	12(名) 17.1%	8(名) 11.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
(3) 国際的な仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)に関わり たい。	42(名) 60.0%	21(名) 30.0%	6(名) 8.6%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
(4) 地域に貢献する仕事または仕事以外の活動(ボランティア 等)に関わりたい。	30(名) 42.9%	25(名) 35.7%	11(名) 15.7%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
(5) 仕事や仕事以外の活動(ボランティアなど)において、リー ダーシップを発揮したい。	32(名) 45.7%	25(名) 35.7%	11(名) 15.7%	2(名) 2.9%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%



第 4 付録

資料 1 調査票その他の調査関係資料

a.依頼文書(電子メールによる)

件名:平成 27 年度内閣府青年国際交流事業フォローアップ調査について
【協力依頼:2/22(月)迄】

日本青年国際交流機構
副会長 本田 温子

平成 26 年度グローバルリーダー事業
既参加青年 各位
(bcc でお送りしています)

会員の皆様におかれましては、ますます御活躍のことと存じます。

さて、下記依頼文書にあります通り、内閣府では、内閣府青年国際交流事業の既参加日本青年を対象に、フォローアップ調査を実施することとなりました。本調査の集計は、(一財)青少年国際交流推進センターが取り扱います。

調査の対象は、「平成 26 年度グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」既参加者」としています。

この調査では、会員の皆様の事業参加による意識・行動の変化とその後の社会における活躍の状況等についての情報を収集することに焦点を置いた、次の 4 項目についての質問が 14 問あります。

- I. あなたご自身の現在の状況について
- II. 内閣府事業の事後活動に関連した事後活動並びにあなたが自主的に行っている社会活動について
- III. 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響について
- IV. あなたの将来に関して

尚、この調査によって、事業の効果を的確に把握することで、今後の事業予算に関する検討及び事業の更なる改善と発展、そして事後活動の活性化に活用されます。

オンラインフォーマット

<https://ssl.formman.com/form/pc/C3j7wMgQPM68hkZB/>

オンラインフォーマットでの回答を基本としておりますが、諸事情によりインターネットからの入力が難しい方は、こちら http://www.centerye.org/download/swy_questionnaire2016.1.pdf よりアンケートファイルをダウンロードしてご記載の上、メール(swy-questionnaire@iyeo.or.jp)または FAX (03-3639-2436)へ送信ください。

御自身の回答はもちろん、同期のみなさんにも声をかけて、積極的に御協力ください。
半数以上の回収率が必要とされています。期日までにより多くの方々の御回答をいただくよう御協力をお願いします。

本件についての問い合わせ連絡先:

(一財) 青少年国際交流推進センター

フォローアップ調査担当 田中佐代子、桑原真哉

swy-questionnaire@iyeo.or.jp TEL03-3249-0767 FAX03-3639-4236

以下、内閣府からの依頼＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

平成 27 年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査について

各 位

日頃より内閣府青年国際交流事業に御理解、御協力いただき、誠にありがとうございます。

このたび内閣府は、平成 26 年度グローバルリーダー育成事業の既参加日本青年を対象に、フォローアップ調査を実施することといたしました。

本調査を通じ、既参加青年の皆様の事業参加による意識・行動の変化と現時点での事後活動の状況等についての情報を収集することにより、事業の効果を的確に把握し、今後の予算に関する検討及び事業の更なる改善、そして事後活動の一層の推進に資することとしています。

皆様も御存知のとおり、内閣府青年国際交流事業においては、事業参加はゴールではなく、その後の社会貢献を行うためのスタートと位置づけています。

参加青年のその後の活躍状況について正確な情報を得ることは、事後活動の推進と並んで内閣府の重要な責務と考えていますので、積極的に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

<回答をいただくにあたって>

○集計作業は、一般財団法人青少年国際交流推進センターで行います。

○アンケートへの回答は、平成 28 年 2 月 22 日(月)午前 10 時までをお願いいたします。

○なお、ご本人確認のために氏名等をお伺いしております。

返信していただいたアンケート内容は、集計結果が公表されることはありますが、氏名入りの回答が外部に公表されることはありません。

↑ 以上メール文案

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官補佐(国際企画担当)

金原 明彦

-----以上

内閣府青年国際交流事業に関するアンケート調査＜平成26年度グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」参加者向け＞

【ご回答にあたって】

1. 本調査は、平成26年グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の日本参加者を対象に、主に事業の効果及び、事業参加後1年間の事後活動の内容と変化を把握するために行うものです。
 2. 回答いただいた内容は、個々の回答内容がそのまま公表されることはありません。本調査の結果は、統計的数値として取りまとめます。
-
-

フォームの記入画面へ行く

記入をやめる

c. 調査票ーオンラインフォーマット 回答用紙

内閣府青年国際交流事業に関するアンケート調査＜平成26年度グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」参加者向け＞

回答者氏名： 【必須】

回答者メールアドレス 【必須】

I. あなたご自身の現在の状況についてお伺いします。 【必須】

問1 あなたの現在の年齢をお答えください。

▼選択してください▼

問2 あなたの性別をお答えください。 【必須】

☐1.男 ☐2.女

問3 あなたの現在の就業状況をお答えください。（○は1つ） 【必須】

- ☐1. 国会議員・地方議員・地方自治体の首長 ☐2. 企業経営者 ☐3. 国際機関職員 ☐4. 民間企業勤務（正社員）
☐5. 民間企業勤務（正社員以外） ☐6. 団体職員 ☐7. 国家公務員 ☐8. 地方公務員 ☐9. 大学教員
☐10. 小学校・中学校・高校等の教員 ☐11. 自営業 ☐12. 大学院生・研究生 ☐13. その他学生（11.以外） ☐14. その他
☐15. 働いていない

問3-1 問3の「14.その他」にチェックを入れた方は、具体的に記入をお願いします。

II. 内閣府青年国際交流事業（内閣府事業）の事後活動（IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動）並びにあなたが自主的にしている社会活動についてお伺いします。 【必須】

問4-1 下記の活動のうち、あなたが企画、または、参加したことのあるものをお選びください。（複数選択可）

- ☐1. 事後活動組織の国際大会
☐2. 事後活動組織の国内大会（全国大会、ブロック大会 等）
☐3. 参加した国際交流事業等の実施への協力（例：広報の実施、ホームステイの受け入れ 等）
☐4. 主に国外を対象とする国際交流活動（例：スタディーツアー 等）
☐5. 主に国内を対象とする国際交流活動（例：国際教育支援 等）
☐6. 国内外の災害復興支援（東日本大震災復興支援活動 等）
☐7. 街おこし等の地域密着型の社会活動
☐8. 事業説明／報告会等の事業参加経験を他者に伝える活動
☐9. その他

問4-1-1 問4の「9.その他」をチェックされた方は具体的に記入ください。

II. 内閣府事業の事後活動（IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動）に関連した事後活動並びにあなたが自主的にしている社会活動についてお伺いします。問4-2-A 問4-1で回答された活動について、A 企画した内容とあなたの役割について具体的に記入ください。

A.企画した内容

- ・事業名：
- ・目的：
- ・ねらい：
- ・実施場所：
- ・規模（参加人数及び予算）：
- ・成果等（具体的に記入）：

問4-2-B 問4-1で回答された活動について、B参加した内容とあなたの役割について具体的に記入ください。

B.参加した内容

- ・事業名：
- ・目的：
- ・ねらい：
- ・実施場所：
- ・規模（参加人数及び予算）：
- ・成果等（具体的に記入）：

問5-1 あなたは内閣府事業への参加をきっかけに、各種スキルの開発に取り組むようになりましたか。該当するものをお選びください。（複数選択可） **【必須】**

- ☒ 1. リーダーシップやマネジメント力を向上させるために自己啓発活動に取り組んだ
- ☐ 2. 日本のことについてより理解を深めるために学び始めた
- ☐ 3. 事業で交流した国の社会や文化（言語を含む）をより深く学び始めた
- ☐ 4. 英語のスキルアップに取り組んだ
- ☐ 5. 事業参加後に日本国外でも通用する資格をとった
- ☐ 6. その他
- ☐ 7. 該当するものはない

問5-1-1 問5-1の「6.その他」をチェックされた方は具体的にご記入ください。

問5-2 【問5-1で1～6を選んだ方のみ回答】どのようにスキル開発に取り組みましたか。どのようなスキルの向上にどのような方法で取り組んだか、具体的にご記入ください。

問6 これからどのような事後活動（社会活動）に取り組みたいです。これから取り組みたい活動または、既に取り組んでいる事後活動について、平成26年度グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ユース・リーダーズ」で得たこと、広げたネットワーク、そして自身で向上させた（伸ばした）スキルを使ってどのように活動していくか、1年以内、5年以内の計画を具体的にご記入ください。

問6-1 1年以内の計画

問6-2 5年以内の計画

問7-1 事業参加後、海外留学を経験しましたか。あるいは海外留学について具体的に計画していますか。

【必須】

- ☐ 1. 海外留学を経験した又は現在、海外留学中である
- ☐ 2. 今後、海外留学をすることを具体的に計画している
- ☐ 3. 該当するものはない

問7-2 事業終了直後に、事後活動への参加や海外留学のほかに、事業の成果をいかすために設定した目標や計画について、達成したものや、達成に向けて行動しているものについて記載してください。

Ⅲ. 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響についてお伺いします。

問8 内閣府事業に参加したことで、あなたのその後の人生やキャリアにどのような影響がありましたか。下記aからiに挙げる項目について、「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち該当するものをそれぞれ1つお選びください。

問8-a. 事業に参加したことは、自分の人生や人としての生き方に良い影響を与えている 【必須】

- ☐ ①非常にそう思う ☐ ②そう思う ☐ ③ややそう思う ☐ ④あまりそう思わない ☐ ⑤そう思わない ☐ ⑥全くそう思わない

問8-b. 事業に参加して、生き方の姿勢やものの見方が変わった 【必須】

- ☐ ①非常にそう思う ☐ ②そう思う ☐ ③ややそう思う ☐ ④あまりそう思わない ☐ ⑤そう思わない ☐ ⑥全くそう思わない

問8-c. 事業に参加したことで、日本と海外との関係に関心を持つようになった 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問8-d. 事業に参加したことで、日本人としてのアイデンティティを意識するようになった 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問8-e. 異文化の人々との仕事や活動の協働において、事業参加経験が役立っている 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問8-f. 事業参加経験をきっかけに、リーダーシップやマネジメント力が向上した 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問8-g. 仕事の選択等のキャリア形成段階において、事業参加経験が役立っている 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問8-h. 実際に仕事や仕事以外の活動をする上で、事業参加経験が役立っている 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問8-i. 事業参加経験をきっかけに、社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった 【必須】

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問9 事業終了後、異文化の人々との仕事や活動の協働や、リーダーシップやマネジメント力の発揮が必要な場面において、どのように事業参加経験がいかされましたか。

問10 内閣府事業に参加したことで、あなたの国際的又は国内の人脈やネットワークは広がったと思いますか。
「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち
該当するものをそれぞれ1つお選びください。

問10-a. 国際的な人脈・ネットワークが広がった **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問10-b. 国内の人脈・ネットワークが広がった **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問11 【問10で①～③を選んだ方のみ回答】どのような場面で、ネットワークが広がった、役に立ったと感じましたか。具体的にご記入ください。

問12 あなたは、同じ事業に参加した外国参加青年と現時点でも交流が続いていますか。 **【必須】**

☐1. 交流が続いている ☐2. 交流は続いていない

問12-1 【1. 交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可） また、c,d.を選んだ方は具体的な内容記載してください。

- ☐a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている。
☐b. 事業終了後に外国青年を訪問する、外国青年の訪問を受けるといった交流が続いている。
☐c. 社会貢献活動を共同で行なっている。
☐d. その他

【問12-1-c. 社会貢献活動を共同で行なっている】と答えた方のみ、具体的な内容を記載してください。

【問12-1-d. その他】と答えた方のみ、具体的な交流の内容を記載してください。

問13 あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。 **【必須】**

☐1. 交流が続いている ☐2. 交流は続いていない

問13-1 【1. 交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可） また、c,d.を選んだ方は具体的な内容記載してください。

- ☐a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている。
☐b. 事業終了後に他の日本青年を訪問する、他の日本青年の訪問を受けるといった交流が続いている。
☐c. 社会貢献活動を共同で行なっている。
☐d. その他

【問13-1-c 社会貢献活動を共同で行なっている。】と答えた方のみ、具体的な内容を記載してください。

【問13-1-d その他】と答えた方のみ、具体的な交流の内容を記載してください。

IV. あなたの将来に関して伺います。

問14 現時点での自分の気持ちに最も近い選択肢をそれぞれ1つお選びください。

問14-（1）今後、海外に留学してみたい。（既に留学経験のある方は、留学を再度経験したいかどうかという観点から選んでください） **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問14-（2）今後、海外で働いてみたい。（既に海外勤務経験のある方は、海外勤務を再度経験したいかどうかという観点から答えてください。） **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問14-（3）国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。 **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問14-（4）地域に貢献する仕事または仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。 **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

問14-（5）仕事や仕事以外の活動（ボランティアなど）において、リーダーシップを発揮したい **【必須】**

☐①非常にそう思う ☐②そう思う ☐③ややそう思う ☐④あまりそう思わない ☐⑤そう思わない ☐⑥全くそう思わない

質問は以上です。御協力ありがとうございました。

最後に「内容確認」のボタンをクリックしてください。

資料 2 集計表

内閣府青年国際交流事業に関するアンケート調査結果

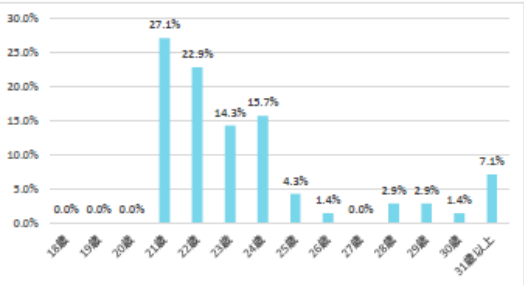
<平成26年グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」参加者向け>

調査期間 : 平成28年1月27日～2月29日
調査方法 : ホームページから選択及び書き込みによる調査
回答数 : 70名
本集計結果はアンケートの数字による集計のみで、コメント及び自由記述は別途扱うものとする

I. 調査対象者の諸特性
本調査において、有効に回収されたサンプルの基本的な属性は、次のとおりである。

問1 あなたの現在の年齢をお答えください。

年齢	人数	%
18歳	0(名)	0.0%
19歳	0(名)	0.0%
20歳	0(名)	0.0%
21歳	19(名)	27.1%
22歳	16(名)	22.9%
23歳	10(名)	14.3%
24歳	11(名)	15.7%
25歳	3(名)	4.3%
26歳	1(名)	1.4%
27歳	0(名)	0.0%
28歳	2(名)	2.9%
29歳	2(名)	2.9%
30歳	1(名)	1.4%
31歳以上	5(名)	7.1%



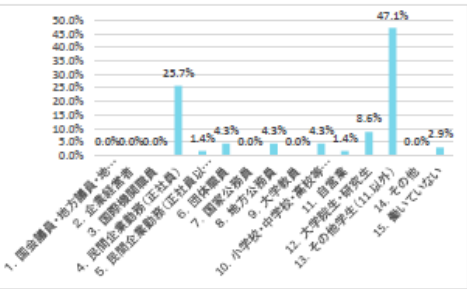
問2 あなたの性別をお答えください。

性別	人数	%
男性	16(名)	23%
女性	54(名)	77%



問3 あなたの現在の就業状況をお答えください (○は1つ)。

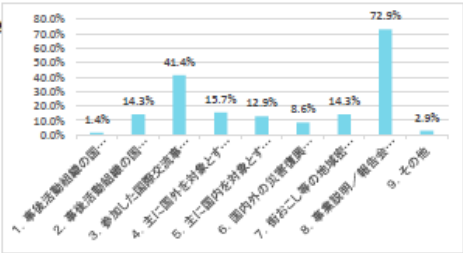
項目	人数	%
1. 国會議員・地方議員・地方自治体の議員	0(名)	0.0%
2. 企業経営者	0(名)	0.0%
3. 国際機関職員	0(名)	0.0%
4. 民間企業勤務 (正社員)	18(名)	25.7%
5. 民間企業勤務 (正社員以外)	1(名)	1.4%
6. 団体職員	3(名)	4.3%
7. 国家公務員	0(名)	0.0%
8. 地方公務員	3(名)	4.3%
9. 大学教員	0(名)	0.0%
10. 小学校・中学校・高校等の教	0(名)	0.0%
11. 自営業	1(名)	1.4%
12. 大学院生・研究生	6(名)	8.6%
13. その他学生 (11.以外)	33(名)	47.1%
14. その他	0(名)	0.0%
15. 働いていない	2(名)	2.9%



II. 内閣府青年国際交流事業 (内閣府事業) の事後活動 (IYEO活動や事業参加をきっかけとして行っている社会活動) 並びに あなたが自主的に行っている社会活動についてお伺いします。

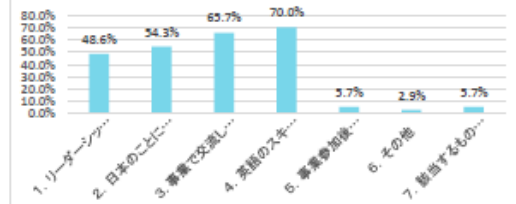
問4-1 下記の活動のうち、あなたが企画、または、参加したことのあるものをお選びください。(複数)

項目	人数	%
1. 事後活動組織の国際大会	1(名)	1.4%
2. 事後活動組織の国内大会 (全国大会、ブロック大会等)	10(名)	14.3%
3. 参加した国際交流事業等の海外への旅行 (例: 広島の参観、ホームステイの参入等)	29(名)	41.4%
4. 主に国際を対象とする国際交流活動 (例: スタディーツ)	11(名)	15.7%
5. 主に国内を対象とする国際交流活動 (例: 国際教育支援)	9(名)	12.9%
6. 国内外の災害復興支援 (東日本大震災復興支援活動等)	6(名)	8.6%
7. 街おこし等の地域密着型の社会活動	10(名)	14.3%
8. 事業説明/報告会等の事業参加経験を他者に伝える活動	51(名)	72.9%
9. その他	2(名)	2.9%



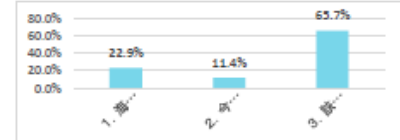
問5-1 あなたは内閣府事業への参加をきっかけに、各種スキルの開発に取り組むようになりましたか。該当するものをお選びください。(複数選択)

項目	人数	%
1. リーダーシップやマネジメント力を向上させるために自己啓発活動に取り組んだ	34(名)	48.6%
2. 日本のことについてより理解を深めるために学び始めた	38(名)	54.3%
3. 事業で交流した国の社会や文化(習慣をきむ)をより深く学び始めた	46(名)	65.7%
4. 英語のスキルアップに取り組んだ	49(名)	70.0%
5. 事業参加後に日本国外でも通用する資格をとった	4(名)	5.7%
6. その他	2(名)	2.9%
7. 該当するものはない	4(名)	5.7%



問7-1 事業参加後、海外留学を経験しましたか。あるいは海外留学について具体的に計画していますか。

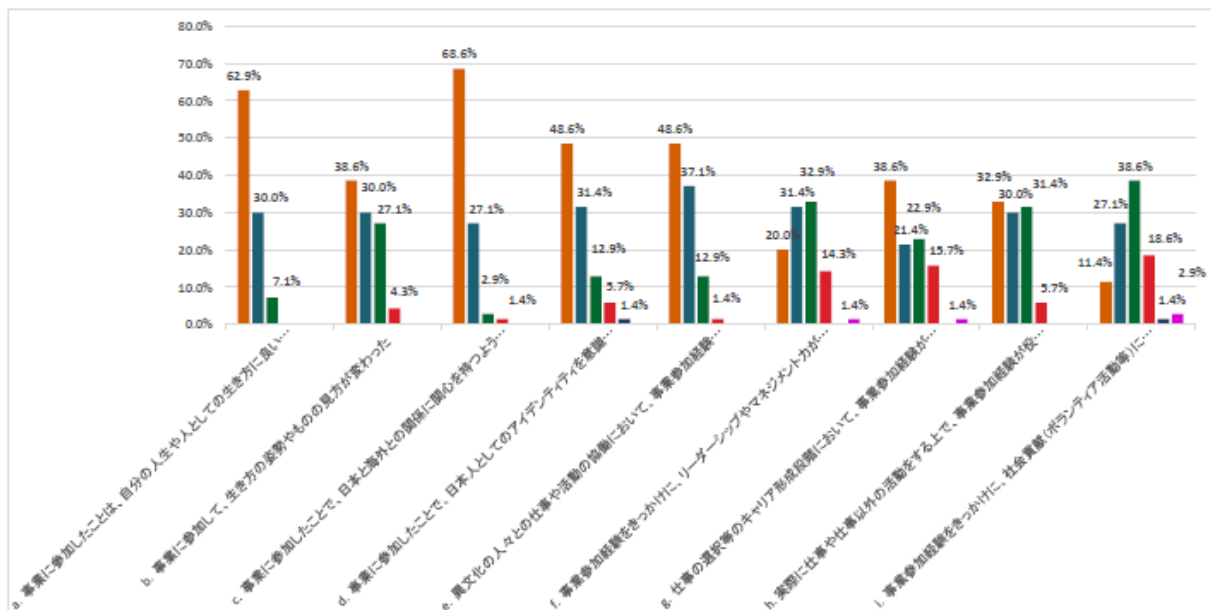
項目	人数	%
1. 海外留学を経験した又は現在、海外留学中である	16(名)	22.9%
2. 今後、海外留学をすることを具体的に計画している	8(名)	11.4%
3. 該当するものはない	46(名)	65.7%



Ⅲ. 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響についてお伺いします。

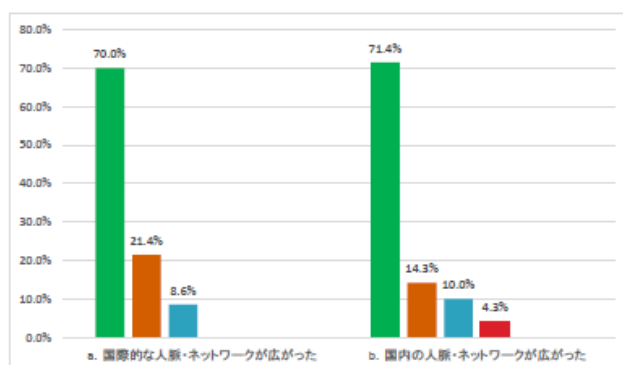
問8 内閣府事業に参加したことで、あなたのその後の人生やキャリアにどのような影響がありましたか。下記aからiに挙げる項目について、「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち該当するものをそれぞれ1つお選びください。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
a. 事業に参加したことは、自分の人生や人としての生き方に良い影響を与えている	44(名) 62.9%	21(名) 30.0%	5(名) 7.1%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
b. 事業に参加して、生き方の姿勢やものの見方が変わった	27(名) 38.6%	21(名) 30.0%	19(名) 27.1%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
c. 事業に参加したことで、日本と海外との関係に関心を持つようになった	48(名) 68.6%	19(名) 27.1%	2(名) 2.9%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
d. 事業に参加したことで、日本人としてのアイデンティティを認識するようになった	34(名) 48.6%	22(名) 31.4%	9(名) 12.9%	4(名) 5.7%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%
e. 異文化の人々との仕事や活動の協働において、事業参加経験が役立っている	34(名) 48.6%	26(名) 37.1%	9(名) 12.9%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
f. 事業参加経験をきっかけに、リーダーシップやマネジメント力が向上した	14(名) 20.0%	22(名) 31.4%	23(名) 32.9%	10(名) 14.3%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
g. 仕事の選択等のキャリア形成段階において、事業参加経験が役立っている	27(名) 38.6%	15(名) 21.4%	16(名) 22.9%	11(名) 15.7%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
h. 実際に仕事や仕事以外の活動をする上で、事業参加経験が役立っている	23(名) 32.9%	21(名) 30.0%	22(名) 31.4%	4(名) 5.7%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
i. 事業参加経験をきっかけに、社会貢献(ボランティア活動等)に取り組むようになった	8(名) 11.4%	19(名) 27.1%	27(名) 38.6%	13(名) 18.6%	1(名) 1.4%	2(名) 2.9%



問10 内閣府事業に参加したことで、あなたの国際的又は国内の人脈やネットワークは広がったと思いますか。
「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち
該当するものをそれぞれ1つお選びください。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
a. 国際的な人脈・ネットワークが広がった	49(名) 70.0%	15(名) 21.4%	6(名) 8.6%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
b. 国内の人脈・ネットワークが広がった	50(名) 71.4%	10(名) 14.3%	7(名) 10.0%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%



問12 あなたは、同じ事業に参加した外国参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

項目	人数	%
1. 交流が続いている	70(名)	100.0%
2. 交流は続いていない	0(名)	0.0%

問12-1 交流が続いている（続いていると答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください）（複

項目	人数	%
a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている	67(名)	95.7%
b. 事業終了後に外国青年を訪問する、外国青年の訪問をうけるといった交流が続いている	47(名)	67.1%

問13 あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

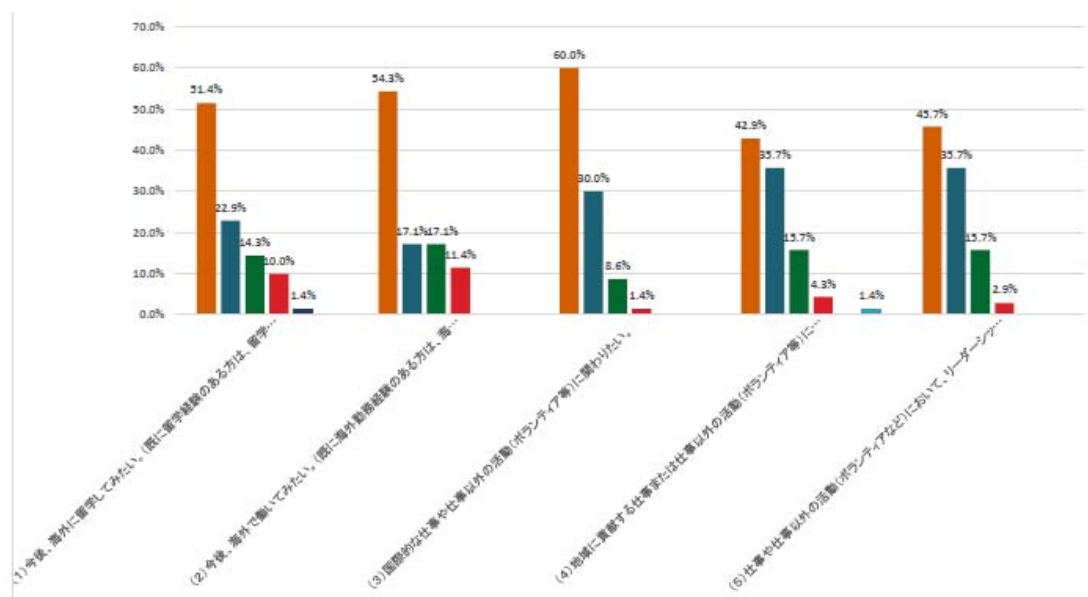
項目	人数	%
1. 交流が続いている	70(名)	100.0%
2. 交流は続いていない	0(名)	0.0%

問13-1 交流が続いている（続いていると答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください）（複

項目	人数	%
a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている	68(名)	97.1%
b. 事業終了後に外国青年を訪問する、外国青年の訪問をうけるといった交流が続いている	59(名)	84.3%

問14 現時点での自分の気持ちに最も近い選択肢をそれぞれ1つお選びください。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
(1) 今後、海外に留学してみたい。（既に留学経験のある方は、留学を再度経験したいかどうかという観点から選んで）	36(名) 51.4%	16(名) 22.9%	10(名) 14.3%	7(名) 10.0%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%
(2) 今後、海外で働いてみたい。（既に海外勤務経験のある方は、海外勤務を再度経験したいかどうかという観点から選んで）	38(名) 54.3%	12(名) 17.1%	12(名) 17.1%	8(名) 11.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
(3) 国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。	42(名) 60.0%	21(名) 30.0%	6(名) 8.6%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
(4) 地域に貢献する仕事または仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。	30(名) 42.9%	25(名) 35.7%	11(名) 15.7%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
(5) 仕事や仕事以外の活動（ボランティアなど）において、リーダーシップを発揮したい。	32(名) 45.7%	25(名) 35.7%	11(名) 15.7%	2(名) 2.9%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%



資料 3 内閣府青年国際交流事業の概要(平成 27 年度派遣事業)

国際青年育成交流	・平成 6 年の皇太子殿下の御成婚を記念して始められた事業で、今年で 22 回目となります。 ・カンボジア、ドミニカ共和国、ラトビアの各国にそれぞれ 14 人の日本青年を 18 日間派遣します。 ・訪問国では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、日本文化の紹介、国際協力活動の体験、教育・環境・文化等の課題別の視察、ホームステイなどを行います。また、帰国後の国際青年交流会議では、日本に招へいた外国青年と共に地球規模の諸問題等についてのディスカッションを合宿形式で行います。
日本・韓国青年親善交流	・日本と韓国両国政府の共同事業として、昭和 59 年の日本・韓国共同声明および昭和 60 年日韓国交正常化 20 周年を踏まえ、昭和 62 年度から開始した事業で、今回で 29 回目となります。 ・韓国に 25 人の日本青年を 15 日間派遣します。現地では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、文化・スポーツ交流、教育・文化・福祉・産業等の各種施設の訪問、ホームステイなどを行います
日本・中国青年親善交流	・日本と中国両国政府の共同事業として、昭和 54 年の日中平和友好条約締結を契機に開始した事業で、今回で 37 回目となります。 ・中国に 25 人の日本青年を 12 日間派遣します。現地では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、文化・スポーツ交流、教育・文化・福祉・産業等の各種施設の訪問などを行います
東南アジア青年の船	・日本と ASEAN 各国による共同事業として、我が国と ASEAN 各国間の共同声明に基づき、昭和 49 年度から行っている事業で、今回で 42 回目となります。 ・日本青年約 40 人と ASEAN10 か国の青年約 280 人が、約 50 日間、日本国内活動・船での ASEAN 各国の訪問、各寄港地での様々な交流活動を行います。船内では、異文化理解、環境、教育等のテーマについての英語によるディスカッションをメインのプログラムとするほか、各国の社会事情の紹介、文化・スポーツ交流などを行います。訪問国では、政府首脳等への表敬、現地の青年たちとの交流、ホームステイ、各種施設の訪問などを行います。
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	・「青年の船」事業及び「世界青年の船」事業の成果を継承して改組し、25 年度新たに実施する事業です。 ・世界各国から集まった外国青年と船内で共同生活をしながら、テーマごとのディスカッションや文化交流を通して切磋琢磨し、相互理解を深める事業です。有識者によるセミナーの受講や参加青年が自主活動等を企画することによって、異文化対応能力やコミュニケーション能力を高め、リーダーシップやマネジメント力の向上を図ります。世界の多様な感じ方や考え方に触れる機会の多い事業です。
青年社会活動コアリーダー育成プログラム	・高齢者関連、障害者関連、青少年関連分野の社会活動に携わる日本青年（各分野 8 人）を、英国（高齢者）、デンマーク（障害者）、ドイツ（青少年）の各国に 10 日間派遣し、各分野の社会活動で中心的担い手となる人材を育成します。 ・訪問国では、関係機関や施設等の訪問、派遣分野の背景事情や社会活動に関する先進的な取組みなどを学びます。



資料 4 日本青年国際交流機構(IYEO)の概要

1.沿革

日本青年国際交流機構(INTERNATIONAL YOUTH EXCHANGE ORGANIZATION OF JAPAN 略称 IYEO)は、昭和 34 年度から始まった内閣府(総務庁・総理府)が行ってきた青年国際交流事業「青年海外派遣」「青年の船」「東南アジア青年の船」「日伯青年親善交流」「日本・中国青年親善交流」「オマーン親善交流」「国際青年年記念青年海外特派員派遣」「日本・韓国青年親善交流」「世界青年の船」「国際青年育成交流」「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」「グローバルリーダー育成事業」「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の各事業の参加青年で組織されており、会員数は1万 5 千 6 百名に達しています。

沿革をたどると、昭和 36 年、青年海外派遣事業の既参加青年組織として「日本青年海外派遣青友会」が結成され、次いで昭和 43 年「青年の船」の既参加青年組織として「青年の船の会」が組織され、昭和 60 年には活動組織としての確立を目指して両者が統合し「日本青年国際交流機構」が発足しました。

2.目的・組織

日本青年国際交流機構は、その規約に「青少年国際交流」事業で得た成果を踏まえつつ、国際理解を深め、国際親善に寄与し、もって広く社会に貢献するとともに、会員相互の交流と研さんを図ることを目的とする」と規定し、この目的に沿った活動を行うために、各都道府県が実施している国際交流事業に参加した青年たちとも連携を取りながら全国 47 都道府県に都道府県国際交流機構があります。その名称は、原則として「〇〇都道府県青年国際交流機構」ですが、伝統に基づいた独自名称を称している所や、都道府県事業の既参加青年との合同組織の場合には別名称を称している所もあります。また、47 都道府県の各組織は、一般財団法人 青少年国際交流推進センターの都道府県団体会員に登録されています。

3.活動

日本青年国際交流機構の中央組織は、会員相互の交流を図り、都道府県での活動が円滑に行われるよう連絡調整の役割を果たすとともに、「東南アジア青年の船」や「世界青年の船」等に参加した外国青年との連携強化を推進しています。

都道府県青年国際交流機構は、地域の国際交流活動の振興に寄与し広く社会への活動の輪を広げて行くとともに、内閣府の行う青年国際交流事業の発展に協力することが主な活動です。

平成28年3月25日発行

一般財団法人 青少年国際交流推進センター

住所 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6 階

電話番号 03-3249-0767

FAX 番号 03-3639-2436